

大腸内視鏡検査

当院では最先端の機器を用い、熟練した技術により、苦痛がなく、見落としのない大腸内視鏡検査を行っています。

大腸内視鏡検査とは、肛門から先端に小型カメラ（CCD）を内蔵した太さ 11mm 程度の細長い管（内視鏡）を挿入して直腸から結腸、回盲弁（大腸の入り口）の大腸全域を観察する検査です。近年、大腸がんは増加傾向にあり、この 20 年で死亡者数は 2 倍に増加、女性のがん死亡原因では第 1 位になっています。大腸内視鏡検査では、大腸がん検診で行われる便潜血で陽性になった場合の精密検査はもちろん、腹痛、下痢、便秘、血便などの原因となる大腸疾患の正確な診断が可能です。出血するまでに至っていない早期の大腸がんを発見できるばかりでなく、がん化する恐れのあるポリープを内視鏡で切除することによってがんを未然に予防することができます。

また当院では日帰り内視鏡手術（ポリープ切除）を行っています。大腸内視鏡検査中に切除した方が良いポリープが発見された場合、相談の上、その場でポリープ切除を行うこともできます。

以下の項目に該当する方は大腸内視鏡検査をお受けになることをお勧めします。

- 健康診断の便潜血反応が陽性だった
 - 血便がでる
 - 貧血を指摘された
 - 腹痛が続く、おなかが張るなど、腹部症状のある方
 - 便秘が続く、下痢が続く、便秘と下痢を繰り返すなど、便通異常のある方
 - 便が以前に比べ、細くなった方
 - 大腸癌、大腸ポリープを切除したことがある
 - 炎症性腸疾患の既往歴がある
 - 家族・血縁者に大腸癌の既往歴を持つ人がおり、大腸がんが心配な方
- ◇ 上記の症状以外にも大腸に気になる症状があれば、是非検査をお受け下さい。
- ◇ 血便や肛門から出血が見られた場合、痔の出血だろうと自己判断なさらずに大腸内視鏡検査をお受け下さい。
- ◇ 40 歳以上の方は、症状がない場合でも年 1 回は検診をお受けになることをお勧めします。